

平成26年度8020公募研究報告書抄録(採択番号:14-01-04)

研究課題 : 大規模コホートに基づく歯科口腔関連要因を軸とした口腔と全身の
疾患予防に関する疫学研究

研究者名 : 町田純一郎¹⁾、西山毅²⁾、時田義人³⁾、牧野真也¹⁾、長尾徹⁴⁾

所 属 : 1)トヨタ記念病院・歯科口腔外科、2)愛知医科大学・公衆衛生学、
3)愛知県心身障害者コロニー・生理学、4)岡崎市民病院・歯科口腔外科

8020運動は、開始から20年を経過して、達成率が38%と国民の健康に大きく寄与してきた。近年は8020に関する研究が進み、数値目標だけでなく、その健康増進としての意義が広く認識されてきている。今後の8020運動を進化推進するには、歯の質による機能的評価、さらに口腔の機能と全身疾患との関連など、エビデンスの蓄積が必要となる。そのためには、大規模かつ長期にわたる前向きコホート研究が不可欠である。そこで本研究では、岐阜コホート研究に歯科口腔疾患分野で参加することを計画した。岐阜コホート研究は、5~10万人の大規模サンプルの健康状況を長期に追跡し、疾患の因果関係を検討するコホート研究である。また、この調査では GWAS (Genome wide association study) を含む、網羅的な遺伝学的研究を行うことにより、疾患の原因遺伝子を同定するだけでなく、遺伝要因と環境要因との交互作用の研究も行う予定である。本年度は、準備段階として、2つの検討を行った。1) ベースラインにおける先天性永久歯欠損症について。先天性永久歯欠損症は、本研究の結果から有病率は、約7%であった。この事は全人口の約7%は、ベースラインで8020を達成する事が、困難な集団であることが示唆されている。また、日本人患者において、WNT10A の変異を持つ頻度は、白人に比較して低かった。このことは、GWAS を行う上での、基本的データの蓄積であり、今後日本人の詳細なデータを収集する必要性が改めて示されたことになる。2) エンドポイントとして口腔原発腫瘍に悪影響を及ぼす口腔粘膜疾患について詳細に理解すること。アルコールの恒常的な多量摂取は、口腔・咽頭・喉頭・食道・胃・肝臓・結腸直腸・乳癌の原因となりうるが、これまでに口腔粘膜疾患とアルコール代謝に関する研究は無い。本年度は、まず愛知県内のコントロール群を対象とした研究を行い、年齢の設定や対象者の人数を確認できた。来年度以降から口腔粘膜疾患患者の検討を行い、統計学的な検討を行う予定である。